

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援ひなぎく		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 12日		2025年 12月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 35名
○従業者評価実施期間	2025年 12月 12日		2025年 12月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家庭に近い(一軒家の建物)で家庭的な環境で支援ができること。決まったカリキュラムではなく、保護者の声も聞き入れて、お子様に合わせた支援内容を検討している。 (例えば、食具の使い方を支援する際は、家庭で使う食具を使って実食する支援で対応している)	保護者様からの相談や支援に関する要望には、職員全体ですばやく共有し、要望に応えられるようにしている (家庭で使用する食具を用いた支援・幼稚園生活に合わせた身辺自立に向けた支援方法の共有)	支援内容や環境設定など、職員間で意見交換したり、困っている事などを定期的に話し合える時間を増やす
2	個々に合った手作りの支援グッズや、部屋の環境などをお子様に合わせて変更したり、個別マンツーマンからお友だちと2人、3人へと随時、最適な支援方法をスタッフ間で話し合って支援している	お子様の特性に合わせて、支援内容の工夫や支援の継続ができるように職員間で意見交換を行っている	支援内容が固定化されないように定期的に話し合える時間を作る(発達段階の確認、教材の使い方、
3	手作りの支援グッズが沢山あり、お子様の興味関心に合わせて活用することができる	お子様の興味関心に合わせて、支援内容や教材・教具の工夫を職員間で話し合ったり相談し合っている	保護者支援を充実していく) 家庭でも取り入れやすい遊びの工夫や、かかわり方のポイントなどを保護者に提供できるようにしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一軒家の施設なので、部屋の狭さと天井の低さ。収納物を隠すパーテーションなど、気になるものが多い	・体を動かす活動は、スペースの関係で制限がある	出来る限り、環境の工夫をおこなう。刺激となるものを減らし、隠したり移動させるなどする。 広めの部屋で使える遊具の活用を効果的におこなう
2	部屋の声や音が漏れるので、隣の部屋にも影響する。	建物の構造上、音漏れは防ぐことが難しい	・指導中は、廊下や玄関、事務室の話し声などに注意し、プライバシーに配慮することを常に職員間で意識づける ・事業所に隣接した住人へ、騒音に関しての十分な説明と理解を得て、常に関係性をよくしておく
3	専門職(ST,PT,OT、心理師)などがない	保護者様からの専門的な質問や要望にどこまでこたえられるか	・専門的な知識や技術を全体で学ぶ機会を継続すること ・質問には誠意をもって対応し、外部機関も効果的に活用することが必要